

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	産業関係文献演習		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

武田邦彦の『偽善エコロジー』をテキストとし、発表者が作ってきた要約と批評に対して、先生や学生からコメントをもらうという授業形式でした。要約と批評作ることを通して、論理的な文章の書き方や、自分の意見のまとめ方、他人の意見に対する議論の仕方などを学びました。

講義の最終の3コマを使って、後期に取り組む基礎論文のテーマ・参考文献の仮提出を行いました。「産業関係文献演習」なので、自分の興味あるテーマをどのように産業関係に落とし込むかに苦労した学生もいたようです（ベーシック・インカム等）。ここで、学期前半に行っていた、要約と批評を通して身に付けたものが生きてきたように感じました。授業でのアドバイスをもとに、夏休みの間にテーマについて再検討してもらうことになりました。大幅にテーマ変更する際も、授業中の先生やTAの発言がヒントになるのではないかと思います。

去年は、違う先生の文献演習を履修していたため、久保先生の授業のスタイルは新鮮でした。大学生にとって必要なスキルを身につけることのできる授業だと感じ、去年この授業を履修していたら、もっと力が付いたのだろうか、と少し後悔しています。久保先生のクラスには、モチベーションの高い学生が多かった気がします。毎回ではなくても、自発的な発言や質問が出ていたので、活発な議論をすることもできたと思います。また、クラスの雰囲気も良いので、秋学期はより一層発言しやすい授業になるのではと感じています。

<今後のチューターまたは先生への提案>

秋学期での課題としては、モチベーションの低い少数派を、どのように議論に巻き込むかだと思います。自分以外の方が発表している間、机の下で携帯電話をいじっていた学生もいました。その学生には、山梨君が注意してくれたのですが、私もせっかくチューターとして授業に参加させていただいているので、先生の目が届きにくいところにかかわっていかれたらと思います。

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	産業関係文献演習（石田祐先生）		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

そもそも私がこのチューター制度を知ったきっかけが、何気なく産業関係学科のHPを見たときに千田先生の記事を見たことが始まりです。記事を読んだ時にはあまり関心を持たなかったのですが、石田祐先生の名前を見て変わりました。石田先生には一回生の頃にお世話になっていたので恩返しのつもりで応募しました。私がチューターの授業に参加したのは5月からだったのですが、その頃にはクラス全体が少し馴染んできていたので参加することに若干ためらうこともありましたが、しかし、知り合いがいたので私も少しずつ打ち解けていきました。

仕事内容は何をしたら良いか全然わからなかったです。たぶん先生によって全然違うかと思いますが私の場合、ほとんど私自身の過去の経験を話していただいただけに思います。実際論文の書き方や構成の仕方、文献の集め方など初歩的なところの質問や、彼らが疑問を抱いている問題に対しての私の答えなどほぼ仕事という仕事はしていません。

しかし、下級生との交流は非常におもしろく、また責任感から自分なりに勉強したり有意義な時間を過ごせたと思います。私の友人もチューターの制度を知っていれば応募していたと言っていたので、認知度があまり高くないのが残念です。来年もこの制度があれば是非応募したいと考えています。

<今後のチューターまたは先生への提案>

今のところ思いつかないので秋学期に入り、何か思いついたら直接先生に提案します。

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	文献演習 I-2		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

文献演習2クラスのチューターは、受講生が大変少人数であるため、一緒に授業を受け、発言することをメインに活動しました。2回生対象の文献演習であること、少人数であることから、昨年度務めた1回生向けのファーストイヤーセミナーのチューターとまた趣が全く異なり、求められるものの違いを認識して、それにこたえられるように試行錯誤しながら務めました。仕事内容は、文献を読み、自分自身が勉強して理解することはもちろん、授業中に自ら発言し、受講生に発言を促し、活気づいた講義になるよう努めることでした。

先生が「何をねらいとして、どのように授業を組み立てているのか」について受講生の立場ではなかなかそこまで考えが及びません。だから、毎回授業外で行った先生との反省会は大変勉強になりました。自分自身の力では残念ながら気づくことができなかつた点や、新たな視点を指摘してくださるので、自分の到達度が分かり、まだまだ未熟だと振り返ることも多々あり、非常に勉強になりました。そして、後輩にアドバイスする立場であるためには自分の学力を深める必要性も感じました。予習量も自分自身が2回生で文献演習を受講していた時よりも、多く取り組んでいたようにも思います。「学力」が1番身についたと思いました。ですが、忘れてはいけないことは、私は受講生ではないのでメインではありません。自分が講義の中でするアクションが、どんな影響を及ぼすか、チューターとしてどう行動すべきか、そこまで気を遣うことの必要性を感じました。自己満足の世界ではいけず、もっと効果を出すためにどうすべきか試行錯誤しなくてはいけなかつたと反省しています。

私は活動報告を欠かさず、次の授業前に更新すると決めていました。1回1回の授業のよかったことは何か、反省点、次回の目標など活動報告を作成しながらじっくり考えることができました。その考えた時間や予習をした分だけ、自分自身のモチベーションを高める時間になったと思います。

2回生で自分の未熟さを思い知りましたが、3回生でも反省することがすごく多かつたです。進歩がなくまたまた役不足で申し訳ない気持ちもいっぱいです。ですが、今回も大変濃く、充実した時間となりました。大学生活においていい刺激になりました。参加させていただいたこと、お世話になった先生に感謝しています。春学期間ありがとうございました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

他のチューターの反省から、自分に活かすことができることはないかと思い、よく他のチューターの活動報告も目を通していました。チューター制度もとりあえずあと半年と聞きました。「チューターの在り方」については毎回悩むところです。

他のチューターの考えをミーティングボードなどで交流できたらよいなと今回も思いました。昨年度の春学期は挑戦の意味で利用しましたが、今年は誰も利用してなかつたのもったいないと思いました。活動報告も意味ある時間だと自分とはとらえているので、もっとチューター制度が意味あるものとなるためには、大変ですが、チューター自信の積極性も必要ではないかと感じました。

2010 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	産業関係文献演習		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

<講義内容>

春学期は、4月から6月にかけて課題の図書の本読を行い、7月からは秋学期の論文作成に向けての各々のテーマ設定を行った。チューターとしての業務は、学生の要約文と批評文に対するコメント、作成時にアドバイスをすることやテーマ設定のサポートをおこなうことだった。

前半は昨年、受講した講義と同様の内容であったため昨年自分が作成した要約文や批評文を使用したり、失敗の経験を上手くいかしたりしながら、学生のサポートをすることができたと思う。後半のテーマ設定では、産業関係からのテーマ設定であるがテーマが様々で自分自身の知識不足があり、なかなか的確にアドバイスをすることができなかつたように思えた。

<気づき>

回を追うごとに、学生の要約文や批評文の完成度は上がっていったのだが、発言の数や発表者が偏ってきたことが気になった。今回の反省点として、発言をしやすい雰囲気になかなか作られなかったことがあげられる。教授、TA、チューターがいることは、学生にとってアドバイスをもらう点としては良い環境であると思う。しかし、自分以外の学生の発表などへの関心を奪ってしまったように感じられる。言わばTA、チューター任せの状態があったように思われる。自分の課題以外の関心が薄いことは、学生にとって大きな損失になりかねない。今一度、チューターがなにをするべきなのか、教授とも学生とも違う立ち位置の存在として考える必要がある。

FYSでなにをやったかによって学生たちの論文の作りかたや、文献の探し方に若干の差がみられるように思えた。そのような差を埋めるサポートをチューターが担えればよかった。通年の講義であるため、今後学生間のペースや意欲の差が大きく開いていくことも予想できる。遅れてしまう学生やなかなか意欲的になれない学生をいかにカバーしていくかを考え、秋学期のチューター業務に務めたい。

<今後のチューターまたは先生への提案>